

1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

【評価実施概要】

事業所番号	4572000562
法人名	有限会社 すいせん
事業所名	グループホームすいせん川南
所在地	宮崎県児湯郡川南町大字川南19415-1 (電 話) 0983-47-0234
評価機関名	宮崎県医師会サービス評価事務局
所在地	宮崎県宮崎市和知川原1丁目101
訪問調査日	平成 21 年 3 月 27 日

【情報提供票より】(21年 2月28日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成 15 年 2 月 17 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 7 人, 非常勤 10 人, 常勤換算 6.8 人	

(2)建物概要

建物構造	鉄筋 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	12,000 円	その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)	☒ 無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	315 円	昼食 315 円
	夕食	315 円	おやつ 105 円
	または1日当たり 円		

(4)利用者の概要(2 月 28 日現在)

利用者人数	18 名	男性 6 名	女性 12 名
要介護1	4 名	要介護2	3 名
要介護3	4 名	要介護4	7 名
要介護5	0 名	要支援2	名
年齢	平均 86 歳	最低 69 歳	最高 92 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	川南病院 いずみ歯科医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは、川南町国道10号線に近く、民家が点在する静かで落ち着いた場所にある。「認知症高齢者の自立と尊厳 地域に貢献できるホーム」を理念として掲げている。「認知症であっても人生の先輩として対応するように心がけている」という管理者の言葉からも、理念に沿った取り組みが伺える。また、毎月地元の高齢者とのふれあい交流会や、夏祭り盆踊りへの参加、ボランティアや、幼稚園児・小・中学生との交流が行われている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善取り組みの途中であるが、研修やボランティア受け入れの計画的な取り組みや、地域とのつながりなどをすすめている。外部評価本来の目的を達成するためにも、全員が評価を行うことの意義を理解し、ケアの質改善に向けた積極的な関わりを期待したい。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	職員の交代もあり、全員での評価及び内容の共有化が図れていない。自己評価に対する共通認識のもと、さらなるサービスの質改善に向けての取り組みを期待したい。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	3か月に1回の運営推進会議は、メンバーとして利用者、家族、民生委員、市町村担当者、包括支援センター職員など幅広い参加があり、地域との交流を図る機会となっている。また、会議の中で運営に関する働きかけや、施設における現状も報告されている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	玄関に意見箱を設置する他、運営推進会議や家族会の中で意見を引き出す努力をしている。出された意見については、全体ミーティングで話し合い改善に向けた取り組みがある。預かり金については出納簿に記載し領収書で報告するシステムがある。また、2か月に1回「すいせん便り」を発行し、面会時にも必ず近況を報告している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	毎月地区で行われる「地域ふれあい事業」に参加し、地元高齢者とのふれあいを行っている。また、身体的に外出が困難な利用者に対し、積極的にボランティアを受け入れることで、利用者一人ひとりが孤立することなく、地域とつながりながら暮らし続けられるよう支援している。

2. 評価結果(詳細)

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	認知症ケアの基本となる「高齢者の自立と尊厳」を基本に、馴染みの環境を重視し住み慣れた地域で支え、貢献することを目指して掲げ取り組んでいる。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を日々のケアに活かす働きかけとして、毎月のミーティングで読み上げ職員の意識づけがなされている。また、管理者のヒヤリングからも「認知症であっても人生の先輩として対応、ことばかけを行っている」など、実践に向けた取り組みがある。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地区の公民館で毎月行われている「地域ふれあい事業」に参加し、地元の人々との交流が図られている。また、ボランティア(舞踊など)の受け入れや、幼稚園児とのふれあい、福祉体験で小学生の受け入れなど、年間計画を立て実施されている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	一部の職員においては、評価の意義を理解し改善の取り組みがなされているが、管理者交代ということもあり全員での自己評価ができていない。	○	自己評価を行うことで新たな気づきとなり、更なる改善への取り組みがケアの質の向上につながる。全員で取り組む事の意義を理解し、改善に向けての積極的な取り組みを期待したい。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、3か月に1回ホームのリビングで開催されている。メンバーとして利用者、家族、民生委員、市町村担当者、包括支援センター職員などの参加があり、施設の現状報告や、サービスの質の改善に向け積極的な話し合いが行われている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームの空床状況や、待機の有無を毎月行政に報告し連携が図れている。また、2か月に1回相談員による利用者との話し合いの機会も調整されている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	健康状態の変化時は必ず電話で状態を報告し、面会時にも利用者の日常を報告している。また、2か月に1回すいせん便りで近況報告するよう心がけている。預かり金については、領収書で管理され家族へ報告した記録がある。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関の意見箱が利用された記録は無いが、家族との意見交換記録がある。運営推進会議や家族会を活用し家族との意見交換を行っている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	以前は1棟と2棟の配置転換を行っていたが、職員の交代による利用者への影響を考え最近の異動は行っていない。また、入退職の場合すいせん便りで家族への報告も行われている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修案内を活用し経験年数に応じて職員への働きかけがなされている。研修内容は、毎月行われるミーティングなどで報告され共有している。地区の公民館を借りて研修するなど積極的な取り組みがある。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者が、他のホームの会議に出席し交流を図っている。また、運営推進会議に参加してもらったりして情報交換を行っている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に積極的に職員が自宅や病院に出向くなど馴染みの関係作りに配慮している。また、家族や利用者に直接見学してもらい納得して入居してもらっている。希望時は、体験入居も受け入れる体制がある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の能力に応じて一緒に野菜の皮むきや、洗濯物干し、テーブル拭きなどを行っている。昼食と一緒に食べながら、食材の調理法の指導を受けるなど支え合う関係ができています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	アセスメント記録で本人や家族の意向を確認し、サービス計画に取り入れている。また、意志表示が困難な場合は、表情や行動から意向の把握に配慮する取り組みがなされている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護記録や日誌、申し送りノートなどから個々の利用者の把握に努め、ケース検討会で話し合っ介護計画が作成されている。また、家族への説明、同意を受けコピーを渡すようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3か月毎に見直しされている。プランは職員が日項目につきやすい場所に掲示し、計画に基づいたケアを実践している。	○	状態が安定している場合においても、月に1回は新鮮な目で見直す取り組みにつなげてほしい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	買い物や、ドライブなど積極的な外出支援が行われている。利用者や家族の要望に応じて、ガイドヘルパーを利用するなど柔軟な支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望に応じ、かかりつけ医を優先している。また、利用者の状態がわかるように情報提供書を作成し連携を図る体制が整っている。病院受診は原則家族送迎としているが、緊急な場合は職員が対応している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期の看取りについては現在行っていないが、重度化にそなえ家族会などで協議している。事業所として今後、設備や環境を整え、重度化に合わせ対応していきたいと前向きな姿勢が伺える。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人情報は管理者の指示で厳重に管理されており、取り扱いについては書面で同意を得ている。職員の利用者に対する言葉かけは、かしこまらず自然な会話ができている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	決して利用者を強制することなく、利用者の心地いい場所を優先し寄り添う支援がなされている。ちぎり絵や習字など趣味を取り入れ、利用者のペースで時間が流れている。		

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブルを囲みながら一緒に食べる中で、味付けや嗜好の確認が行われている。また、料理実習で栄養士に助言をもらうなど、機能や能力に応じて支援を行い食事の時間を楽しんでいる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は2日に1回としているが、入浴しない日は身体を拭く、汚れた場合にはその都度入浴する、拒否のある利用者には、入浴時間や職員を代えるなど個別に対応する体制ができています。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の自主性を活かし、テーブル拭きや準備を一緒に行っている。生活歴を家族より確認し、日々のレクレーション活動に取り入れるなど役割や楽しみごとの支援もできている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気のいい日には、利用者の状態に合わせて近隣の散歩を行っている。また、買い物と一緒にいたり、ドライブに行くなどの外出支援を行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関や居室には鍵をかけずに、日々職員の見回りや気配りによる支援を行っている。落ち着きが無い場合は職員と一緒に散歩する等の取り組みがある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は、消防署と連携し年2回開催されているが、地区の消防団や地域住民参加までの訓練は行われていない。	○	運営推進会議を活用し、災害対策について地区の消防団や住民への働きかけを期待したい。

外部	自己	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介護記録に水分、食事摂取量の記録欄を設け、利用者一人ひとり管理されている。料理講習に参加し栄養士による指導を受ける、水分をむせないように工夫するなどの取り組みがある。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂兼くつろぎの為の共有空間には、ソファが置いてあり、お気に入りの場所でゆったりとした時間を過ごしている。季節感を取り入れた飾り付けや、手作りのカレンダーで家庭的な雰囲気を工夫している。居室の入り口に一人ひとり手作りの表札を飾るなどの配慮がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や寝具類など馴染みの物を使用している。能力に応じた、畳やベッドの部屋には、家族の写真や使い慣れたものが置かれ、その人らしく居心地の良い居室作りの取り組みがある。		